

## 難病「後縦靱帯骨化症」セミナー

# 星野監督が患者激励

靱帯が骨のように硬くなる国指定の難病「後縦靱帯



靱帯の骨化症について講演する田中靖久医師(右奥) 〓仙台市青葉区

骨化症」などについてのセミナーが7日、仙台市青葉区

のせんだいメディアテークであり、患者ら約150人が参加した。プロ野球・楽天の星野仙一監督(67)か

らも「なった人にしか辛さはわからないが、ともに前を向いて頑張ろう」とメッセージが届けられた。

このセミナーは、患者や家族でつくる後縦靱帯骨化症友の会などが主催。山形市の東北中央病院院長で、この病気に詳しい田中靖久医師が、症状や治療方法の講演を行った。

田中医師によると、後縦靱帯骨化症は、背骨の中にある後縦靱帯が骨のように硬くなる病気。骨化した靱帯を動かすとさらに大きくなり、周りの神経を圧迫する。手足に絶えずしびれや痛みが走り、排尿障害や歩行困難に陥る場合もあるという。

骨化する原因は不明で、未然に防ぐ手段もない。発見が遅れるほど、症状が改善する可能性は低くなる。友の会によれば、県内には約500人の患者がいるという。

今年、星野監督が同じような症状が出る黄色靱帯骨化症を発症したことから、この病気についても解説した。7年前に後縦靱帯

骨化症を発症した七ヶ浜町の遠藤喜二さん(62)はセミナー後、「同じような苦しみの中で頑張っている星野監督の言葉は勇気が出るね」と話した。

(竹井周平)

2014年9月8日(月)朝日新聞の宮城県版に、病院長が講演を行った難病「後縦靱帯骨化症」セミナーの記事が掲載されました。